

福江城(石田城) 長崎県五島市池田町

福江城は幕末の1863年(文久3年)に福江藩最後の藩主である五島盛徳が完成させた福江川河口近くに築かれた海城で、異国船を監視する船見役を命じられた「江戸最末期に築城された日本一新しい城」となりました。海上防衛や異国船の来訪に備えるために幕府から建築を認められたこともあり、城内には台場(砲台)が設けられていました。遺構としては石垣や石橋のほか、城の裏門である蹴出門が現存しています。また現在、本丸跡に長崎県立五島高等学校、北の丸跡に五島観光歴史資料館や五島市立図書館、五島市福江文化会館が建てられており、二の丸跡には盛成の隠居所として造られた五島氏庭園(国指定名勝)が当時のまま残っています。五島家35代当主の五島典昭氏から直接庭園を中心に説明を受けました。



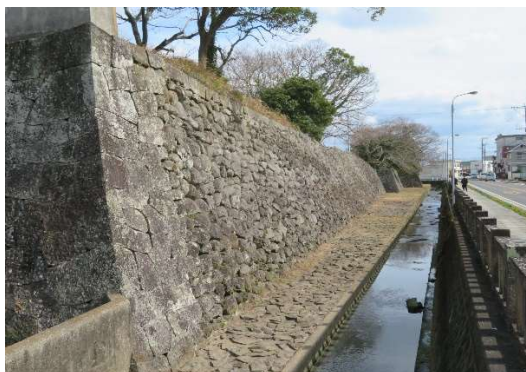
武家屋敷(石垣が特徴的)



石垣の積み方に特徴がある(石垣を登ると上の石が落ちる)



堀と石垣



今では堀が水路になっている



城門



石橋は一枚石の組み合わせ



35 代当主五島典昭氏



34 代までの歴代当主



回遊式大名庭園(名勝心字が池)



樹齢 800 年のクスノキ



有事の時の抜け道



中国原産金明竹



中庭の堪忍灯籠



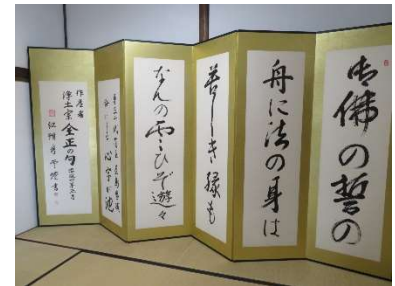
お茶の水をくみ取る井戸



お客接待用の亀の間



梅の間から庭の眺め



玄関の庭設計した金正の辞世の句



本丸跡には五島高校



砲台跡



潮が引いているので石垣基礎が見える

